

【12月14日 南福島スタバと小鷹先生のエッセイ効用講座】

生涯学習コーディネーター 伊達マリコ

皆さんご機嫌よう。

今回は【福島市議会と伊達市議会の傍聴】を書いた。さて今回は、スタバで開催されたエッセイ講座のお話である。それでは、始まりはじまり…。

12月14日（10時～12時）黒岩のTSUTAYAスタバ店内で、南相馬（小高診療所医師で作家）の小鷹昌明先生がエッセイ講座を行った。

このスタバでは以前からそういった少人数のイベント（手話勉強会等）を開催している。

国道4号線黒岩交差点近く。ちょっと分かりにくい場所だが、ガソリンスタンドの裏あたり。駐車場は広い。改装して新しい店舗だ。

私は毎朝、福島駅のカフェで執筆したり、常連さんとおしゃべりを日課にしている。コーヒーがお替わり自由。学生スタッフも顔見知りによく世間話をする。

この日のスタバスタッフもコミュニケーション能力が高く、クリスマスカラーのユニフォームを着て笑顔で対応してくれた。

10時、エッセイ講座スタート。申し込みをした人達が飲み物片手に集まって来た。長いテーブルを10人で囲む。

まずは、小鷹先生の簡単な自己紹介。

その後、前もって書いてきた60代男性のエッセイ（厚焼き卵をマスターするまでを文章にしたもの）と、先生がそれを添削したものを皆んなに読んでもらう。そして所々で、参加者一人ひとりに感じたことを話してもらう…という流れだ。

実は、南相馬で毎月小鷹先生のエッセイ講座があり、福島交通のエコ定期（100円で、福島駅から南相馬まで、1時間50分程度行ける）を使って私は何度も参加している。

その日、スタバエッセイ講座に参加した人の年齢層は幅広く、高校生もいた。土曜日の午前中にここに集まって来るというのは、それぞれにいろんな思いがあつてのことだろうと思う。

文章を書くことは、自分自身を見つめ直すことにも繋がる。

今、嬉しいことがあってそれを文章にしたいという人もいるだろう。

反対に、生きることが辛く苦しいからこそ書く人もいるのではないか。私はそういう文章を読ませてもらうと、自分だったらどうするだろうか、と深く考える。

エッセイ講座で、自分の書いた文章を皆んなに読んでもらい、講評を受けることは最高の気分だろう。まさしく作家なのだから…。

私も現在、少人数のイベント企画(自主的社会活動として、福島県議会開会日の傍聴案内)をしている。

傍聴終了後、参加者でオフ会をする。初対面の人に自分の思ったことを話すのだから緊張する。が、皆んなの様子を見ていると、楽しく話している。それは、周りの人がちゃんと話を聴いてくれる安心感があるからだと思う。

スタバの、こういった少人数イベントに会場提供して下さることに感謝だ。今後も引き続き宜しくお願いします。

最後に一言。

人との繋がりが希薄な現在だが、それでも自分から求めて行動すれば、ちょっとずつ生活が変化してくる。是非、新しい挑戦を楽しんで欲しい。以上、スタバのエッセイ講座のお話でした(^.^)